

法
48

飛驒鐵道敷設請願趣意書

法
48

301153-000-7

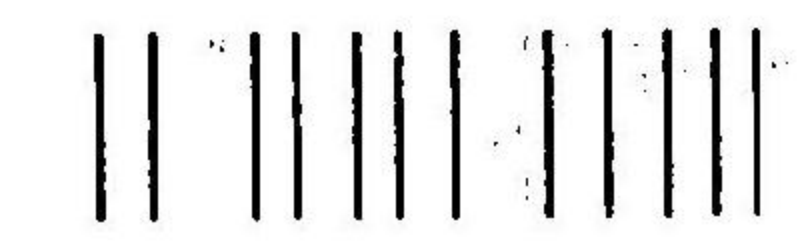
法-48

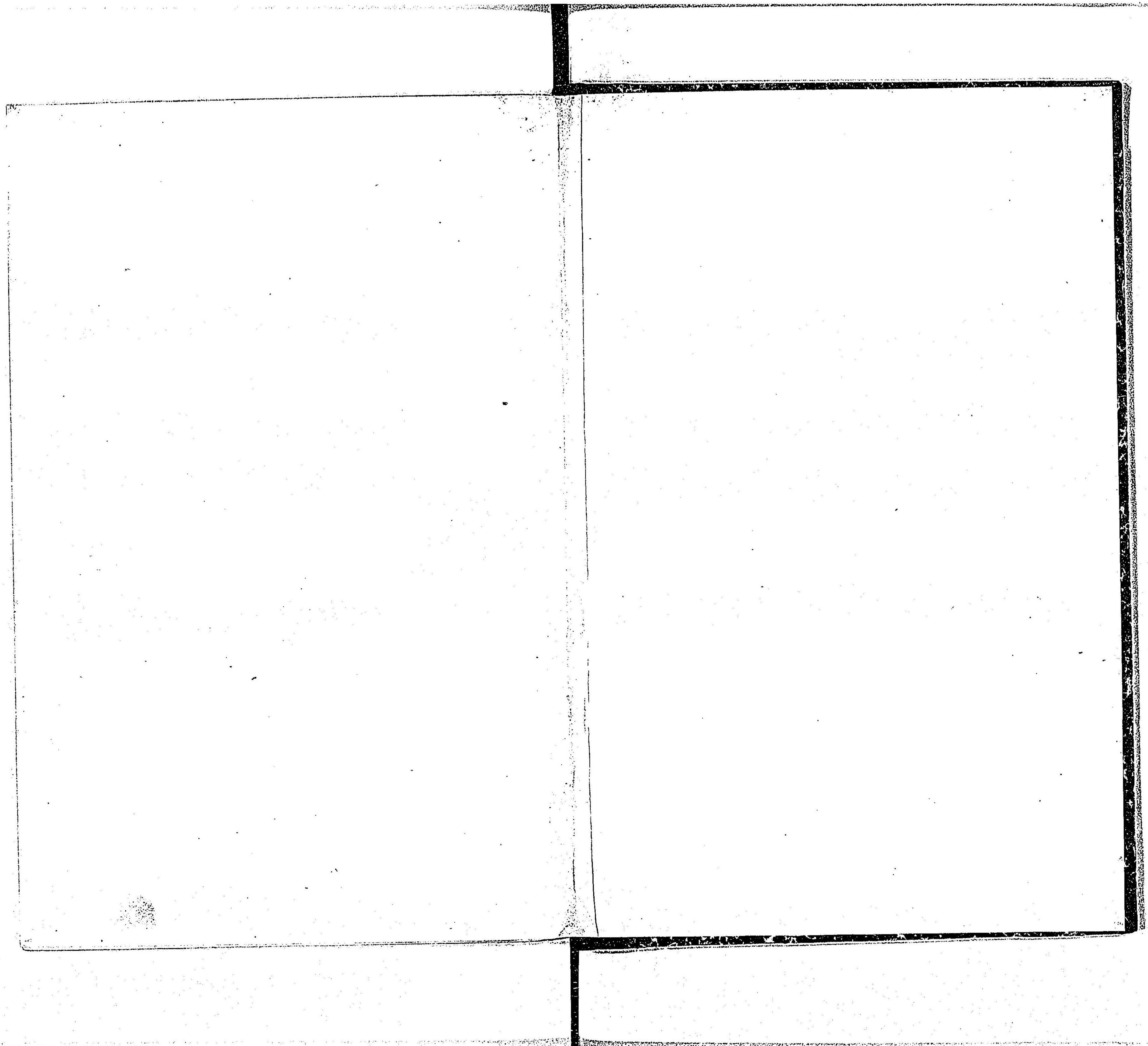
飛驒鐵道敷設請願趣意書

住民平

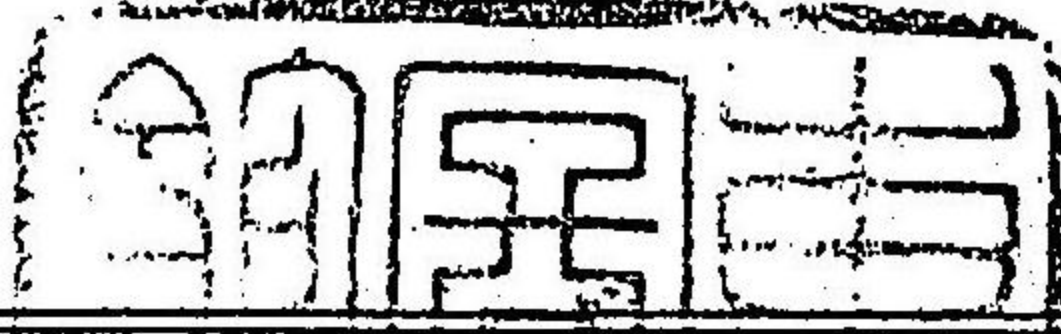
M25.12

CDF-0042





№1873XV



飛驒鐵道敷設請願趣意書

飛驒の國たる東西二十里二十一町南北二十二里三町に彌り面積五百餘面積殆んど美濃に倍して人口は其七分の一に過ぎず故に山に腐材利あり躬自ら飛驒國の地を踏みたるものは皆其天然の倉庫たるを信ずと雖も其住民最下等の生活に甘んじて敢て意を殖産興業に注がざるものは河床淺くして岩石多し激湍奔馳舟楫の便を欠くを以て貨物悉く車馬人背に依て三十里以外の市場に輸出入を得ず是故に運搬費用は貨物原價の二倍若しくは三倍に上り損益相償はざるを以て資を抱て之を用ふるの途なく空しく岐路に彷徨するの觀なきにあり是等飛驒有志の徒が鐵道の敷設を切望して止まざる所にして吾等の切望は偶軍事上の必要に相伴ふて益鐵道敷設の急務を感ずる所以なり左に經濟上並に軍事上の二項に別ちて之を詳論せん

第一 經濟上鐵道の必要

經濟の極意は廢物利用に外ならず今飛驒國に在りて空しく山林の間に腐朽するものにして鐵道敷設の爲に大に價值を生じ國の富源となるもの少からず其重要



なるものを列記すれば

(一)木材 飛驒國の山林總反別は實に七十四萬七千六百八十一町九反ありて到る所皆材木ならざるはなし其材木は松杉檜樅榿等を以て最とし其相場たるや高山に於て一圓の檜材は岐阜に在りて三圓六十錢なり其山に於て株代と稱して未だ伐採せざる檜材八十錢のものは名古屋市場に於て六圓内外の價值を有す其此の如きものは大率水流に藉りて之を運搬すれども一旦河水の暴漲せる時の如きは個々海に流れ去りて之を禦く事能はず無事に之を目的の地に送るの困難なるを見るべきなり故に土俗流に燃すの薪木全時に盡きたる時は木尻の着きたると稱し大に祝宴を張りて神を祭るが如き危険の常に之に伴ふあるが爲なり今鐵道の便に依りて之を運送する事を得ば斯る危険は全く其痕跡を留めず其利便圖り知るべからざるが故に其輸出額も亦現時に幾倍すること必然の勢なり

(二)石材 飛驒國は建築材碑石等に富むこと他に其比少し建築材は大洞石「ドベ」石等其産額非常に多しと雖も只運搬の費用夥多なるを以て曾て是が輸出を試

みたる者なし故に今若し鐵道の便に依りて之を運送するを得は或は其價煉火石よりも廉にして火に耐へ久しきに持する事遙に之に勝るものあらん碑石の太江石(石質花崗)と稱するもの、如きは其質堅牢緻密美にして光澤あること遙に根生川御影等に勝る其道に精通する人の能く知る所なり

(三)諸礦物 飛驒は到る所鑛脈あらざるはなし現に採掘に従事するもの借區坑數^{三ヶ所}十ヶ所試掘坑數^{六ヶ所}年々他邦に輸出する額銀銅鉛等を合せて十萬貫黒鉛一萬六千貫なりとす若し之が運送費を減ずる事を得て市場に相當の利潤を得るに至らば其坑數の現在に倍するに至るは實に某工學士の保證する所なり

(四)蠶絲 生絲は飛驒國固有の國産たり飛驒國の製絲家は尙幼稚なるにより協同組合等を組織して聲名を横濱に博するを欲せず各自其委託販賣店を異にし或は一度他邦仲買人の手を経て横濱に出づるもの多きを以て甚著はれずと雖も現に國を越へ外に出づるもの一年二萬四千貫袖屑物の輸出額又二萬四千貫なりとす若し鐵道の便あるが爲に南地の桑を北地に移し北地の桑を南地に致

四
す事を得ば(氣候南北大差あれば南地の蠶兒既に繭をなして桑葉不用に屬するときは北地の蠶兒尤も桑を要するの時期に至り南地の蠶兒尤も桑を要するの時は北地は蠶兒尙幼にして桑葉餘りあり)從來桑葉の欠乏を訴ふるが爲に幾百萬の蠶兒を空しく河水に流棄するの憾なき事を得て其收額遙に現時に越ゆるに至るべし

其他尙鐵道の便に依て一大巨利を博し得べきは飛驒國蠶絲家の非常に損乏を招きたる失敗を回復し得るに在り土地の謔にも絲師と稱して之を投機家視し苟も一定の財産を有するもの、蠶絲業に従事するを憚る所以のものは貨物を國の中央高山より横濱に輸すにも亦神戸に輸すにも少なくて旬日を費すが故に絲況の有望なるを見て直に之を送り出すも横濱なり神戸なりへ到着する曉には商況の變動し易くして意外の下落を見る事なきにわらず故に飛驒國製絲家は巨額の貨物を擁して貿易港に滞在するが然らざれば期すべからざる勝負を僥倖して掛引を爲さざる可らず是有望なる製絲家の少なき所以にして又製絲家の損乏し易き所以あり若し鐵道の便を得て一晝夜にして之を貿易港に

致すを得ば斯る損失を來すの憂なく有望なる生絲家踵を接して起るに至らん

(五) 小白木并木地類 漆器下駄足駄等の粗製品にして現在他邦に輸出する額は一年凡そ三十二萬貫なり此巨額の貨物は悉く牛馬人背に依りて運送するものなるが故に販路未だ充分廣からず若し今にして運送費を減ずるを得ば其額尙に此に止まらざるへし先年飛驒國の線路參謀本部の議に上りたりとの風評あるや元と山に於ける價格頻に昇騰せり又以て其有望なるを證すべきなり

(六) 炭薪 未だ曾て他邦に輸出せる事なしと雖も若し鐵道の便に依りて之を名古屋に輸し北陸に送る事を得ば新に一富源を開くものなり材木の枝梢切外ハツケンの空しく山林に朽ちて却つて害を爲すものは皆薪炭の好原料なりとす

(七) 石灰 飛驒國の肥料は専ら此石灰に依る者なれども實際は之を用ひて尙餘りあり石灰脈斯く多くして今日發掘し居るものは僅かに三四個所なり鐵道の便開くればセメント、肥料等其需要多き今日なれば又貴重の輸出たること疑ひなし

(八) 漆器陶器 春慶塗の名天下に轟ろく第三回内國勸業博覽會に於て有功賞を

得たるものは實に我飛驒國なり飛驒國の漆器斯くの如く精良なれども運送費の不廉なるが爲に其價格意外に貴く今日猶威を市場に逞うする事能はず故に運送費を低減するは實に目今の急務なり

陶器も亦尾張瀬戸に優るあるも決して劣るを見ず殊に其陶土の性質佳なるか爲に白地の光澤あるは其特質にして現に芳國社の如きは往々外人の注文を受けて其製造に従事し居れり其他水裂焼の頗る精巧なるあり天然青地の奇なるあり是又運送費を低減するを以て目今の急務とす

(九) 麻生紙 蕎麥硫黄砥石粘土一位細工等 生紙の輸出額一萬九千二百貫麻一萬五千貫及蕎麥若干等の如き重に米穀を生せざる地の特産物にして其額幾何にても増加すべく硫黄砥石粘土馬鈴薯藥品酒水塊等の如きも又運送費の如何に依て輸出額愈高きの上るべし其他一位細工の如きは我國特有の製品にして前途の望又頗る大なるものあり

以上は皆運送の不便なるが爲に販路を見出す事能はずして空しく廢棄に屬し又は其進歩停滞し居るものなれば一朝鐵道の敷設あらば其發達果して幾何なるや

知るべからず

第二軍事上鐵道の必要

軍事上名古屋師團と金澤衛戍とを戰時安全に連絡を要するか爲に飛驒線路の必要なる事は參謀部内既に定論ありと聞く故に此事に關しては吾等の喋々を要せざる所なれども其一端を擧げて以て大方の注意を乞ふも亦無益にあらざるべしと信ず

北門の警備と云へば直に露國と云へる觀念の起るは目下の状況たり人あり西伯利亞鐵道の速に成るべからざるを説いて曰く全鐵道は東より西より漸次其工事を進むと雖も一年の進歩漸く六十露里に過ぎず西伯利亞鐵道全線九千九百露里にして未だ竣工せざるもの七千四百九十露里なれば若し今の儘にして進歩するものとするも百二十五年を経れば完成せざるものなりと然りと雖も是單に露國が古今未曾有の大飢饉に遭遇し平日にてさへ困難せる財政の非常に困難する時の工事の状況を見て以て概論せるものにして專制政府の勢力非常に強大なるを知らざるものなり專制政府の勢力の恐るべきは斯る困難の間に立ちて尙其工

事を中止せず浦鹽斯德港と、グラフィスカヤ間の工事を延期せる事僅かに一年間なるに過ぎず此勢を以て進むときは一旦國勢の回復するわらば二年若くは三年にして完成すべきやも知るべからず故に豫期の如く七年にして完成する能はずとするも十年乃至十二年を経ば完成するものと断定するも太早計にあらざるべし若し飛驒線路にして第一期に成就せざれば早くも十二年を経て浦鹽斯德港に鷲旗空に翻り數萬の貔貅黑龍江頭に集まるの時に當り一方にては名古屋師團の全力を安全且敏捷に北陸に集むるの機關猶未だ全備せざるべし是豈千載の遺憾にあらずや加之我日本海は早晚露英清の三國相衝突する所なり今日露に軍隊集中の機關なきが爲に未だ手を下さずと雖も此鐵道完成の曉はバルカン半島に於て中央亞細亞に於て現今猶未だ遑ふする能はざるの勢力を集めて一朝此日本海に轉集し來るべし是朝鮮危急存亡の時にして英清又手を束ねて成を仰ぐものにあらず此時に當りて我國は儼然局外中立を守るも將た其一方に當るにも兵力を北陸に集中するは一日も欠くべからざるなり敦賀は北陸の最良港にして各國先づ目を茲に注ぐが故に他日要塞砲臺を築くの設計もありと聞けば少しは安堵す

べきが如きも能登半島より東津輕海峽に至る迄能登の七尾港を舍いて一の港灣なきが故に假令暗礁多くして軍港に適せずとするも戰亂の機は平時を以て律すへきにあらざれば第一の注目を受くるは此港なりとす加之海上佐渡島あり全島には夷港あり彼れ之に據りて兵力集中の中繼所とせば我を侵すの道程を減縮するの利あり又た敗退するか其力を補ひ其銃を養ふの便あり此時に當り東京衛戍の諸兵は東よりし名古屋衛戍の兵は飛驒路を経て北陸に出で以て此地を守るの策なかるべからず名古屋より飛驒を経て金澤に到るに其線路百八十哩とすれば先鋒を載せたる列車は名古屋發程より八九時間を経て金澤に達し得べし爾後二時間毎に列車を繼發せば一晝夜にして歩兵一聯隊砲兵二中隊騎兵一中隊を派遣する事を得て金澤の兵と合して混成一旅團の戰鬪部を編成し以て彼の上陸を妨ぐべく更に又四十時間を経て通計六十餘時間を費せば名古屋一師團の兵を北陸に集合するは誠に容易の事なりとす果して此の如くなれば彼れに先んじて彼に優るの兵力を集合するを得ん是に由て之を見れば此飛驒線路ありて僅かに北門の守備を收めたるものと云ふも不可なかるべし吾等竊に怪しむ斯る重要なる線

路を支線路の一に數へて第一期線路に組み入れられず却て敦賀富山間の海岸に露出して戦時に毫も効益なき線路を第一期に組み入れられたることを吾等淺見薄識にして斯る事を論ずるの職にあらざると雖も若し當局の者に就て之を訂す事あらば此線の必要なること思ひ半ばに過ぐるものあらん

第三工事及維持の難からざる事

飛騨國と云へば山岳重疊殆んど鐵道を通ずるの空地なく其工事悉く東海道線路の箱根中仙道線路の確氷の如くなるべしと考ふるは全く地圖のみを見て其實際を知らざるものゝ議論にして毫も取るに足らざるなり實地に就て視れば益田川の上流と宮川の上流とは其間僅に一二里に過ぎざるが故に岐阜より川に沿ひ溯りて高山に至り又川に沿ふて越中に出つれば殆んど平地を走るに異ならず飛騨の國たる海面を抜くと非常に高きには相異なきも上野より信濃相摸の平野より俄に箱根の嶮あるが如くならず順次に高くなり行きて順次に低くなり行く形勢にして其勾配四十分の一を越ゆる所なし故に若し墜道を穿つの必要ありとするも僅かに個所二三に止まるべく又其川は皆溪河に過ぎざるが故に兩岸自ら橋柱

を爲すを以て橋架の架設費も亦隨て非常に僅少なるべし現に某工學士の實測する所に依れば全線路凡百哩の中少しく困難を感ずるの場所は僅か二十五哩に過ぎざるべしと誠に至當の測量なりと信す

現今官線に屬するものは東京より神戸に至り高崎より直江津に至るの二幹線と長濱より金ヶ崎に至り大船より横須賀に至り大府より武豊に至るの三支線に過ぎず其哩數總計五百七十哩にして營業費總額二百萬〇〇一千二百七十三圓なれば一年一哩に就ての營業費は三千五百十二圓餘なりとす今飛騨國の鐵道線路は測量の如何と線路の取捨に依りて多少の差を生ずべしと雖も大約百哩を越ざるべし而して現時飛騨國より輸出する貨物の總額二千八百八十一萬六千二百五十斤にして此鐵道貨金二萬七千九百四十九圓八錢なり又輸入する貨物の總額は壹千二百七十五萬〇五百六十四斤にして此貨金壹萬七千〇〇三圓六十五錢八厘なり又飛騨を通過して美濃より越中に入り越中より美濃に入る貨物は現今前記飛騨國輸出入額の三分の一に過ぎずと雖も一朝鐵道敷設の曉は却つて飛騨國輸出入額の三倍に上るべく飛騨國への輸入額は現時の儘にして餘り多額に上らざるべ

し然れども輸出の増加は随て輸入の増加を來すが故に先づ之を二倍半と見做せば大差なかるべし而して輸出額の十倍に上るべきは信じて疑ざる所なり其一例を擧ぐれば岐阜縣震災後物價騰貴せるが爲に輸出俄に二倍したるは世人の皆能く知る所なり

旅客は目今の計算に依れば凡二万八千八百〇九人に過ぎずと雖も鐵道敷設の上は我國内處々に散在する藥泉に浴せんが爲に避暑の最良地なるが爲に商用隨て増加するが爲に其數三倍するは疑を容れず今鐵道敷設後の鐵道收入を概算すれば左の如し

摘要		貨物	賃錢
飛驒國より輸出額		二八八、二六二、五〇〇 _円	二七九、〇〇、八五〇
全 國へ輸入額		三一、六二六、四一〇	四二、五〇九、一四一
全 國を經過する貨物		一二四、七〇〇、四四二	一三四、七二三、九一四
計		四四四、四八九、三三二	四五六、二三三、九〇五
旅 客		八六四二七 _人	一九、四四六、〇七五

總 計

四七五、六七八、九八〇

右の表に依て見れば營業收入一哩に付四千七百五十六圓七十八錢九厘餘にして先に記載せる官線一哩に付ての營業費三千五百十二圓餘に對照すれば一年一哩に就て一千二百四十四圓餘の純收入を見るなり之を全線路の割合に改算すれば無慮十二万四千四百七十九圓弱純收入を見る事となるべし吾等は實に此利益ある鐵道を放棄し置くに忍びざるが故に飛驒十一万の士民を代表して斯く諸君の一瞥を乞ふに至りし所以なり

3/35

明治廿五年十二月十一日印刷

明治廿五年十二月十日出版

編輯人兼

住

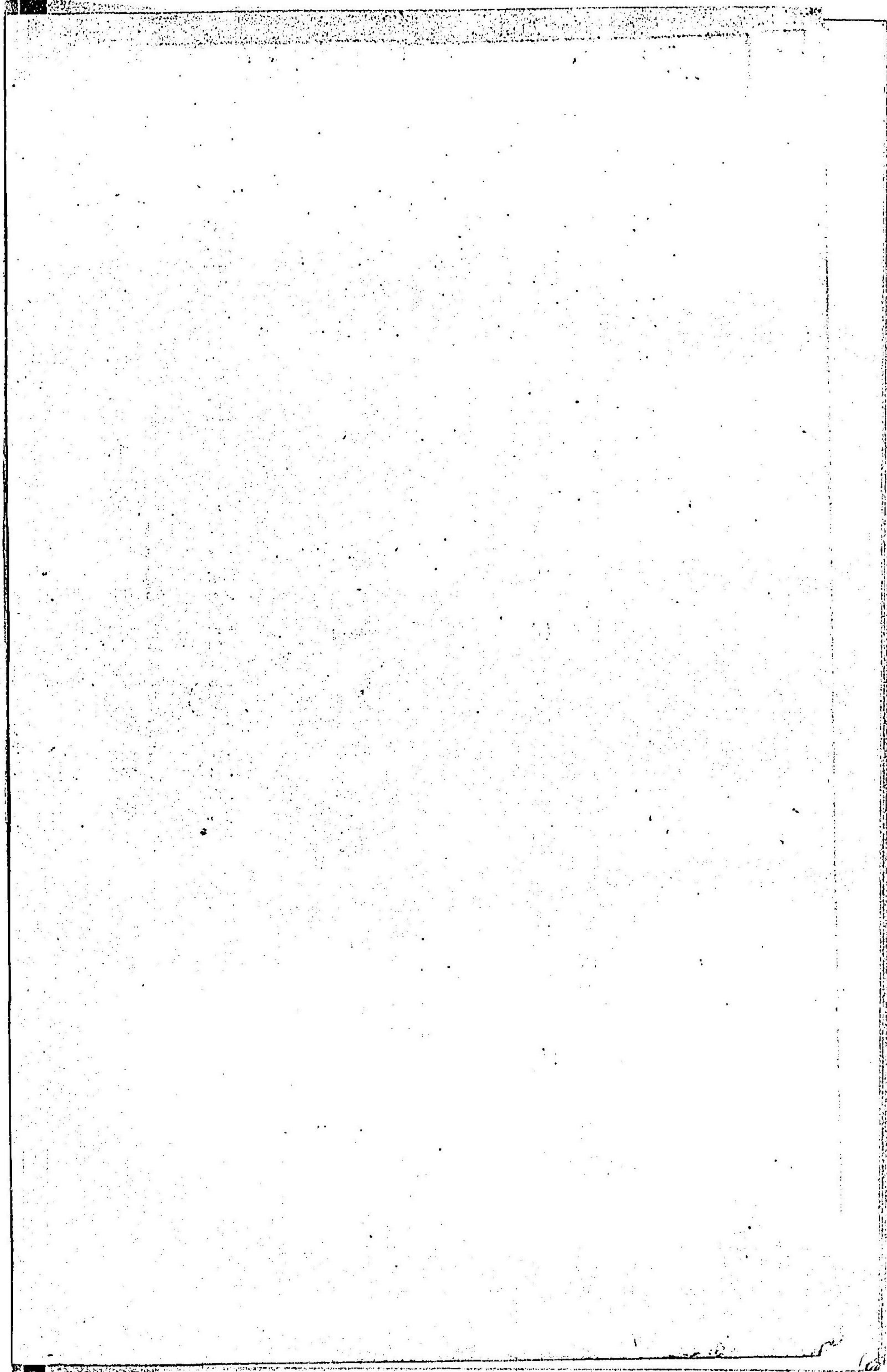
民平

飛驒國大野郡高山町
九百七番戸平民商

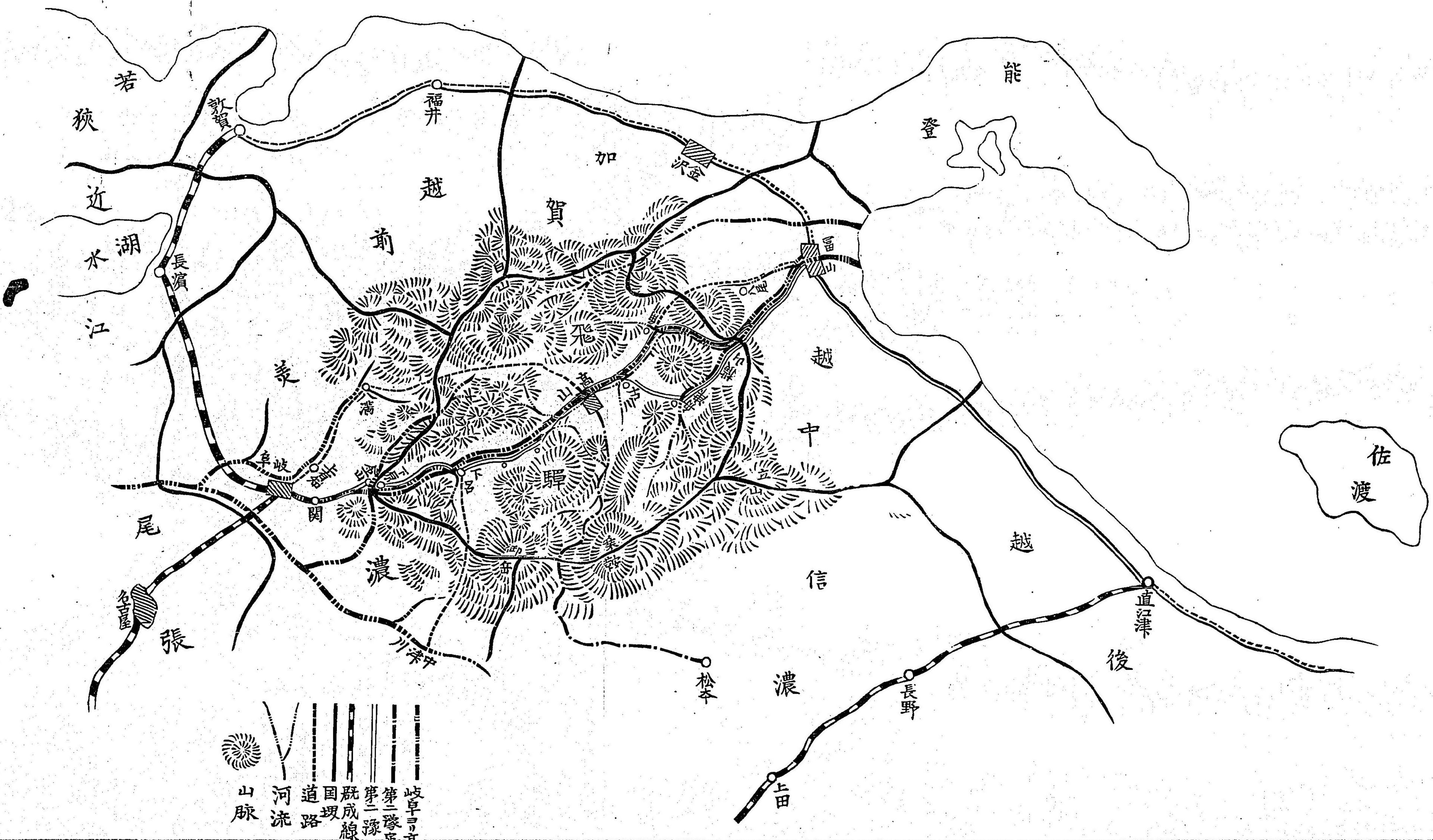
印刷人

澁谷信次郎

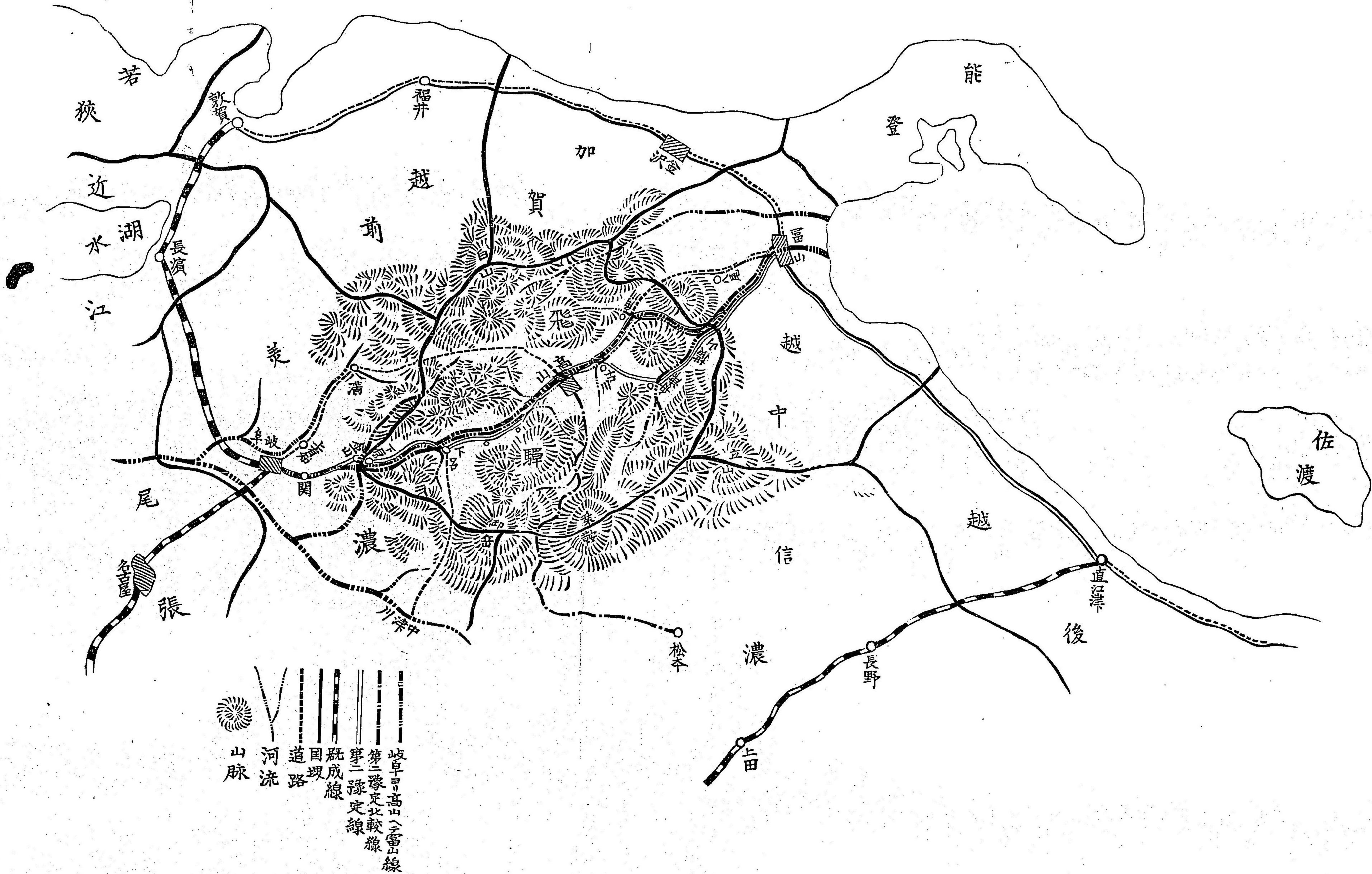
東京市京橋區瀧山町
七番地

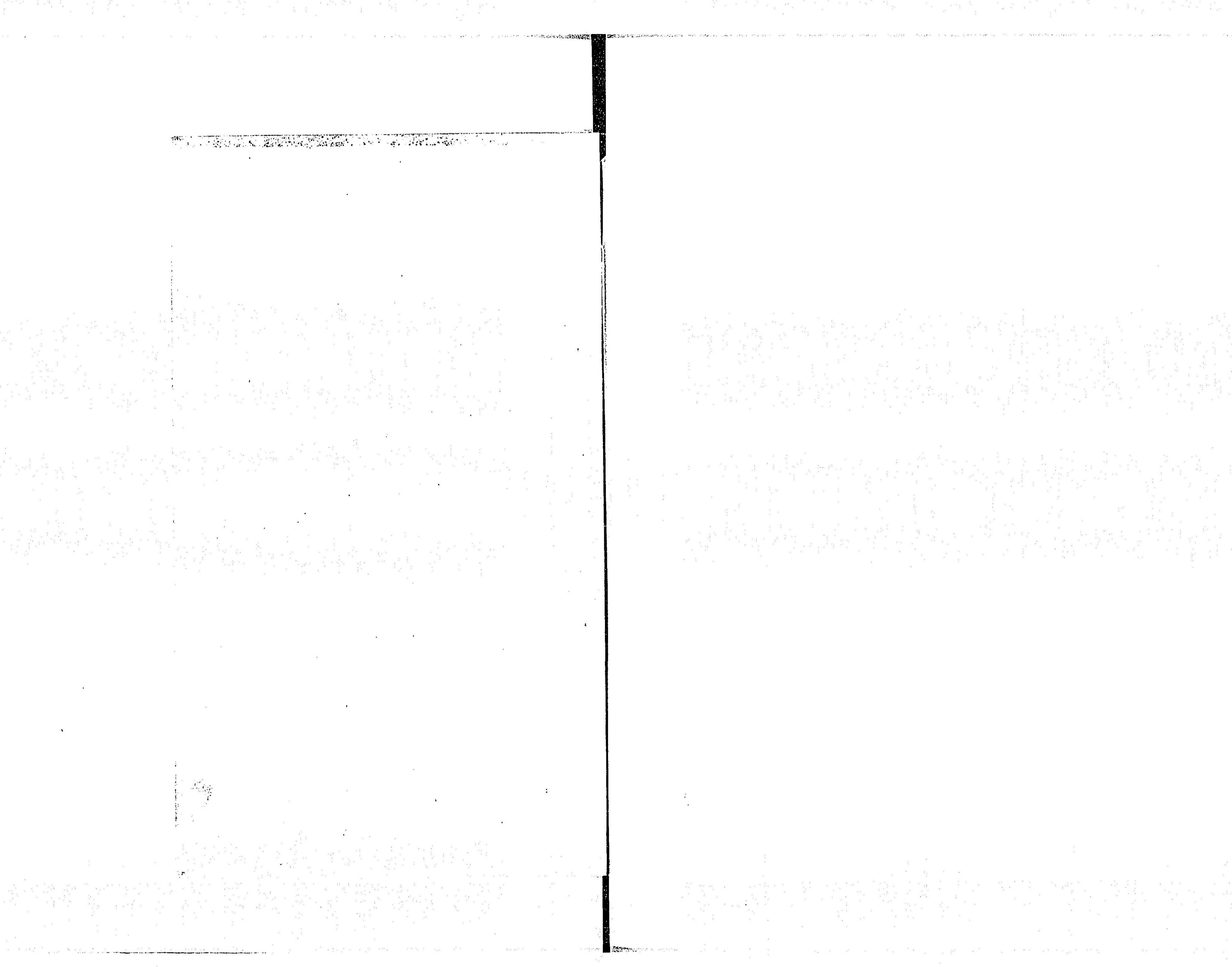


圖畧路線ル至=山富ヲ經ヲ山高リヨ阜岐



圖畧路線儿至=山富テ經ヲ山高ヨ阜岐





法

48

